

## I-R汚職と政治家の条件

政治アナリスト  
元杏林大学教授

豊島典雄

## チャイナマネーに汚染

通常国会では、堂々の外交、内政の政策論争より、桜を見る会、I-R汚職、昨秋辞任した菅原一秀・前経産相、河井克行・前法相夫妻の説明責任等が議論になっている。100年に1度の激変する国際社会に背を向ける国会の内向きな姿勢が気になる。

I-R汚職事件は日本のI-R事業への参入を目論む中国企業が日本人顧問を通じて国会議員に現金等を供与した疑惑である。

1月21日現在、逮捕者1名(秋元司・衆議院議員)。大山鳴動して鼠一匹に終わるのかわからないが、国民代表が外国しかも独裁国家中国と一体の中国企業の「走狗」になっていたことには驚いた。

政治資金規正法で、何人も、外国人、外国法人又はその主たる構成員

が外国人若しくは外国人である団体その他の組織から政治活動に関する寄付を受けることはできない。

今回、チャイナマネーを受領した疑惑をかけられている議員が8人もいる。日本の政治家としての最低限のモラルも失っている議員が8人もいたことは衝撃である。うち、7人は自民党議員である。深刻な病である。「平氏を倒すものは平氏であり、源氏を倒すものは源氏である」(徳川家康)。組織は内側から腐食していく。権力の長期化に伴う一番恐ろしい敵は、驕りと腐敗である。

## 浜の真砂は尽きるとも

浜の真砂は尽きるとも世に盗人の種は尽きまじ(石川五右衛門)。選挙制度や資金制度等の改革をしても政治腐敗はなくなるらない。

戦後の4大疑獄事件は、①昭和電工事件、②造船疑獄事件、③ロッキー

ド事件、④リクルート事件である。いずれも国策に深く結び付いている。①食糧増産に必要な工場拡充のための融資獲得、②低利融資を受けられる計画造船の割り当てや船舶建造費の利子を国費で賄う法律の制定、③対米黒字減らしのための航空機購入、④規制緩和;等である。

昭和23年の昭和電工事件では芦田均内閣が総辞職し、昭和28年〜29年造船疑獄事件では吉田茂内閣が倒れ、昭和63年〜平成元年のリクルート事件では竹下登内閣が倒壊した。

今回は、安倍内閣の成長戦略の目玉のI-R事業に、志の欠けた若手議員等が甘い蜜を求めて群がった構図である。

## 国売りをもうごころ

猿は木から落ちても猿だが、政治家は選挙に落ちればただの人(大野伴陸)。ただの人になりたくないた

め、喉から手を出しても政治資金が欲しいのであるが、共産党一党独裁の中国の企業から金をもらう感覚には驚く。中国政府に弱みを握られる。歌人の与謝野晶子の「君、死にたくも「こと勿れ」にならえば、「君、国売りをもうごころ勿れ」である。常識が微塵もない政治家が何人もいたこと、罪の意識のないことに驚愕する。悪事ははれる。「天知る。地知る。子知る。我知る」(楊震)の故事を想起すべきである。

後漢の楊震は清廉の士であった。地方に太守として赴任の途中、その宿舎に、県令の王密が夜ふけにたずねてきた。王密は人がいないのを見て、金を贈ろうとした。王密は、才能を認められて出世したので、お礼をしようとした。楊はそれを退けた。王密が「これは賄賂というわけではありませんし、幸いここには誰もおりませんから」と言って引つ込まな

かった。そこで楊が言った言葉が「天知る地知る子知る我知る」である。お天道様はしつかり見ている。「天網恢恢疎にして漏らさず」である。

中国は、尖閣諸島で領海侵犯を続け、多数の日本人をスパイ容疑で拘束している。ウイグル、チベット、香港での人権抑圧、台湾への威嚇、選挙干渉も酷い。

この中国は2017年に国家情報法を施行している。第7条に「いかなる組織及び個人も、法律に従って国家の情報活動に協力し、国の情報活動の秘密を守らなければならない」とある。日本の議員が中国企業から金銭を受領すれば弱味を握られる。その自覚がまるでない。墮ちるところまで墮ちた、という感慨を禁じ得ない。

「経営者がなさねばならぬ仕事は学ぶことができる。しかし、経営者が学び得ないが、どうしても身につけていなければならない資格が1つある。それは天才的な才能ではなくて、実にその人の品性である」(ド・ラッカー)。政治家も同じである。しかし、今や、「修身齊家治國平天下」も死語である。

## 政治家の条件

田中美知太郎著「市民と国家」によると、政治家の条件として、古代ギリシアの大政治家ペリクレスは4つ挙げている。

①知力あるいは識見において優れていること。  
②自分の見るところ考えるところを一般の人たちに知らせる説得の能力を持つこと。

③金銭の誘惑に負けない強さ。  
④愛国心。

この条件が欠けていては他の条件がそろっていても何にもならない。

田中は①について、「自分の国のこと世界のことについてその現状と未来を洞察し、どうすればよいかの判断を総合的な立場から下すことができる」というようなことであろう。

一国の指導者としては、これが最も大切な条件ということになるが、そう誰にも求められるものではない。

…この点、毛沢東は職業的な革命家の雄であつても、政治家としては周恩来に劣ると見られるだろう。東條英機その他の職業軍人が国政をあやまっつて、日本帝国を滅ぼすことに

なったのも、またその点に欠けるところがあつたためであると見られるだろう」と指摘している。

田中は②については「いろいろなことを見て、すべてを知っている、これを一般の人に伝えることができなければ、政治家としては失格である。知っているだけなら学者でいいわけである。しかし、政治家は識見をもっているだけでは仕方がないのである。ペリクレスは雄弁家であつた。…しかし今日では全国民を一堂に集めて演説することはできない。政治家はテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の、いわゆるマス・コミを通じて、自分の考えを国民に訴え、これを説得しなければならぬ」と指摘している。

田中は③について、「これは今日やかましく言われているから、特別の説明も必要ないようにも見える。しかしこのことの意味が本当にわかっていのかどうか。人は誰しも欲望のかたまりみたいなものであつて、金も欲しいし、他の誘惑にも弱いのである。金銭をむさぼるとか、酒色に溺れるとかいうことは、人間

## 金銭で国政を曲げるな

田中は④について、「これは今日のかたまりみたいなものであつて、金も欲しいし、他の誘惑にも弱いのである。金銭をむさぼるとか、酒色に溺れるとかいうことは、人間

一般の悪徳であつて、特に政治家についてだけ云々されるものではない。もし政治家について特にこの点の強さが求められるとすれば、それは何のためか。それは金銭のために国政を曲げ、国を売るようなことがあつてはならないからだとされている」と解説している。

田中は④の条件については「これは今日の日本には最も希薄なものとも考えられる。…つまり愛国心は政治家の魂、生命であるということであろう。今日のきびしい状況において、われわれは、政治家のこの条件の大切さを、われわれ自身の問題として、もう1度新しく考え直してみる必要があるのではないか」と訴えている。

チャイナマネーに汚染された政治家はこれらの条件に著しく反し、国の独立を危うくし、国益を損ねる。日本の政治家の資格はない。また、選んだ有権者の責任もある。「国民は己にふさわしい政治しか持たない」(ド・メステル)。政治屋は次の選挙を考え、政治家は次の時代を考える。有権者も真の政治家を選出するよう眼力を鍛える必要がある。